

桜島遠行 2025.12.13

フェリーで桜島に渡り、その周回道路約 35 キロを踏破する、恒例の桜島遠行が今年も行われました。受験を控えた高校 3 年生を除き、5 学年で実施しています。

フェリーは日中、20 分に 1 便出港しますので、中一、中二・中三、高一、高二の 4 グループが 20 分ずつ時差をつけて出発する形になります。最初に歩く中一の寮生はバスで朝 6 時 15 分に出発し、自宅生も含めて鹿児島港桜島桟橋に 6 時 45 分に集合し、7 時発の船に乗りります。15 分の船旅を楽しみ、桜島港に着くと教員を先頭に早速歩き始めます。この港から桜島補助体育館を目指し、桜島の周りを時計回りに進みます。

最初の 2 キロほどはスローペースで歩いて体調を整え、そこから先は各自のペースで走ったり歩いたりしながらゴールを目指します。最初は海沿いを進み、9 キロ過ぎたあたりで道は山の中に入ります。コースのほとんどに歩道が整備されていますが、一部にないところがあるので、そこでは一列右側歩行を厳守し、教員はポイントに立ち、あるいは指導車で巡回してこまめに指導し、事故を防ぎます。途中ところどころに溶岩原があり、参加者は自然の大きさを感じつつ中間チェックポイントに近づきます。

チェックポイントとして毎年、鹿児島市立黒神中学校の校庭をお借りしています。参加者は全員、バーコード入りの ID カードを首からぶら下げており、実行委員がバーコードをスキャンして、誰が何分に何位で通過したかを把握します。多くの生徒はこの校庭で腹ごしらえをして後半に挑みます。

やがて道は国道と合流します。ここから交通量が増えるので生徒も気をつけて歩き、教員も安全指導に力を入れます。このあたり（有村地区）はコースの中で噴火口と道が最も近いところで、年によっては火山活動の音が聞こえますし、風向きによっては灰が降ってきます。そこに展望所が作られていて、多くの観光バスがやってきますが、生徒によってはそこでトイレを借りて先を急ぎます。

前半賑やかだった集団も後半は次第に疲れが溜まって口数が減り、またペースの違いから集団自体が小さくなり、足を引きするようにして歩く生徒も出てきます。各学年最後尾には必ずその学年の教員がつき、生徒を励ましながら共に歩きます。

コースの最後は約 2 キロの直線が続く「溶岩道路」です。歩いても歩いても風景が変わらずつらいところですが、ここまで来ればゴールまで 1 キロちょっとなので、多くの生徒が最後の力を振り絞って走ります。溶岩道路の途中から左に折れ、林を抜けるとゴールです。校長や副校長らが生徒を出迎え、ゴールチェックの後には母の会の皆様にご協力いただいて、桜島フェリー名物「やぶ金」の温かいうどんが振る舞われます。生徒諸君はうどんを食べてしばらく休憩すると、桜島フェリーターミナルまで歩き、三々五々寮や自宅に帰っていきます。この間、中学・高校の生徒会執行部のメンバーや怪我などで歩けない生徒は、実行委員として、コースの誘導、中間地点やゴールでのチェック、ごみの処理など裏方の仕事をきちんと果してくれました。

早い生徒は 3 時間ほどでゴールし（今年は中学 1 年生がトップでした）、午後 4 時過ぎにはすべての生徒がゴールし、大きな事故もなく遠行は無事に終了しました。



本校グラウンドで早朝バスに乗り込みます







黒神口付近。注意喚起の横断幕です



国交省桜島砂防センター前を歩きます



この看板がとても励みになります



溶岩道路から左に折れ、あと少しでゴールです



ようやくゴール!! よく頑張りました



母の会のお母様方が大活躍中です



うどんをいただき、ホッと一息



実行委員も頑張りました